かすみがうらの人2

茨城栗栽培発祥の地
長谷川茂造と兵藤直彦

作付面積、収穫量ともに全国1位を誇る茨城の栗。かすみがうら市は県内でも有数の栗の産地です。栗づくりの礎を築いた人物の足跡をたどります。

先人が築いてきた栗栽培の礎

全国有数の栗の産地であるかすみがうら市。この栗を初めて本格的に栽培した人物が、下志筑の長谷川茂造です。

茂造は、ある日自宅の庭先にあった2本の山栗の実を拾い集め、1反当たりの収入を計算してみました。すると米9俵から18俵に相当したことから、屋敷前の山林を開墾し、栗の苗木を植えることにしました。その後、栗毛虫の防除研究などを行い、本格的に栗栽培を進めていきました。

大正末期には志筑・新治・七会地域で、4万5000本から5万本（約60ヘクタール）の栗が栽培されるようになりました。昭和初期には、中志筑の兵藤直彦が今までの接ぎ木法を改良し、寒さによって木が枯れるのを防ぐ方法を考案しました。

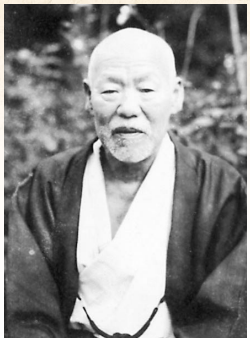
先人たちのたゆみない努力と栗づくりにかける想いが、脈々と現在に受け継がれ、今も味自慢の栗がこの地で育てられています。

Base for Chestnut Cultivation Established by the Ancestors

Kasumigaura City is one of the major chestnut-producing districts in Japan. HASEGAWA Shigezo cultivated chestnuts on a full-scale basis there for the first time. Early in the Showa period, HYODO Naohiko invented the method for preventing chestnut trees from dying from the cold. Owing to the enthusiasm and efforts of our ancestors, delicious chestnuts are growing now.

兵藤直彦

長谷川茂造



HASEGAWA Shigezo
&
HYODO Naohiko